

新学

新見市に
古来より伝わる
文化・自然遺産を
学ぶ旅へ。



三尾寺本堂(上)。如意山三尾寺は、727(神亀4)年、行基が開基したと伝えられており、真言密教の道場として栄えました。神郷下神代の六角石幢(右)とともに、県指定です。

貴重な歴史遺産

新見市には、古来の文化や風情を現代に伝えるさまざまな財産があり、古式の建築物である神社や寺、安置されている仏像など、その多くが国や県の重要文化財に指定されています。今まで知らずに通りすぎていた日常の風景の中に、実は先人たちが長い時間をかけて積み重ね、大切に守ってきたものがあります。郷土の歴史に改めて触れてみると、そこには人々が愛した風景があり、歴史遺産に込められた願いや思いが感じられます。

Niimi is home to many historical places and artifacts, including shrines, temples, and Buddhist statues. Niimi Museum of Art displays works from Japan's most famous artists and those with ties to the city.



青龍寺観音堂(市指定)。真言宗醍醐派の古寺である黒髪山青龍寺は、唐から帰朝した空海がこの地に足をとどめ、その山容と風光に心ひかれて伽藍を建立し、真言密教の霊場としたものと伝えられています。



大佐神社本殿(市指定)。県下でも屈指の広大な社叢を誇る神社で、本殿は808(大同3)年に造営され、江戸末期に再建されたものです。三方千鳥破風造りで、色鮮やかな鶴の彫刻や墓股に彫られた干支が特徴的です。



荒戸神社本殿(県指定)。室町時代中期、荒戸山山中に建立された神社。入母屋造り・平入り・檜皮葺きの三間社の建物で、後世の改修跡はありますが、本殿は全国的にも珍しい貴重な古式の形状を今もなお残しています。



矢田石仏(県指定)。石英斑岩の自然石に阿彌陀如来座像が線彫りされているもので、1265(文永2)年に供養塔として建立されたものと考えられています。この時代に阿彌陀の信仰が哲西地域にも広がっていたことがうかがえます。

column

新見美術館

高い評価を受けている文



人画家・富岡鉄斎の作品約80点を中心に、横山大観・竹内栖鳳から平山郁夫・田淵俊夫・平松礼二宮廻正明までの近現代の日本画、郷土ゆかりの洋画家や工芸家の作品など約1100点を収蔵。1年を通じてさまざまな展覧会やワークショップを開催しています。館内には新見市街地を一望できる喫茶室があり、四季を通じて新見の自然美に親しむことができます。



中世新見庄の豊岡屋敷跡に建つ美術館の外観は、中世風のイメージを表すために、入母屋・銅板葺きの屋根を採用するなど、この地方の風土と歴史を盛り込んでいます。

新見市法曾陶芸館 (猪風来美術館)

文造形作家・猪風来氏の作品や地域の歴史遺産である法曾焼などを展示するとともに、野焼き事業や陶芸教室を通してふれあい活動、法曾焼の復興や縄文土器の復元事業などを行っています。



青少年が、実際の体験を通じて地域の歴史文化を学ぶことのできる情操教育の場となっています。



三尾寺の本尊である木造千手観音坐像(中央)は、行基自らが彫刻したといわれており、戦乱により焼失した伽藍が1559(永禄2)年に再建された際に安置されたと伝わっています。千手観音を中心にして、像に向かって左に毘沙門天、右に不動明王を配した三尊形式の仏像です。



両脇士像は毘沙門天立像(左)と不動明王立像(右)から成り、千手観音坐像と比べると骨太の造形で県下の同時代の仏像の中でも秀作です。中央の千手観音坐像とともに檜材の寄木造りで、鎌倉時代中期の作と伝えられています。

木造千手観音両脇士像【国指定】